

学校番号				
2	3	0	1	2

令和  年  月  日

札幌市立

今年度の重点目標

みんなでつくろう キラリが輝く北小学校

今年度の経営方針

目的を明確にして教育活動を進める  
課題探求的な学習の充実を図る  
みんなでつくろうの解釈を捉え直す

自己評価結果に対する学校関係者評価

	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力の育成	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子ども一人一人が自分の考えをもち、子ども同士、互いに考えを伝え合いながら深めたり広げたりする「みんなで学ぶこと」を目指す授業を構築する。また、その学びの実現のために、学級の子どもの実態を的確に把握し、適切な課題設定と教師の関わりを行う。</li> <li>○ 校外学習や外部講師による出前授業を各教科の単元計画に効果的に位置付け、『本物』に触れる直接体験の機会を充実させる。児童が教室で得た知識を実社会の事象と結び付け、五感を通して理解を深めることで、学ぶことの意義を実感し、探究的な問いを自ら見出す質の高い学びを実現する。</li> <li>○ 学年の実態に合わせて、1人1台端末の計画的な持ち帰りを実施し、デジタル教材を活用した家庭学習の充実を図る。児童が自らの習熟度に応じて学習内容を選択できる環境を整えることで、主体的に学ぶ習慣を育成するとともに、端末を学習ツールとして活用するスキルの定着を目指す。</li> </ul>	A	A
学校関係者評価委員会による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 互いに考えを伝えあいながら深めることや、本物に触れる直接体験は、子どもたちの成長にとって欠かせないものだと思います。</li> <li>○ 端末は学習ツールとして、これからの児童に必須なので強化してください。自宅のWIFI環境についても、整備されていく必要があります。</li> </ul>			

<p>豊かな心の育成</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 雨天時や天候が不安定な時期の屋内での過ごし方を充実させるため、ワークスペースの遊び環境を再整備し、児童の心身のリフレッシュと良好な人間関係の構築を図る。児童会と連携して多様な個性を尊重し合える『自主的なルール』を策定することで、安全で創造的な活動を促進し、互いを思いやる自律的な集団を育成する。</li> <li>○ 児童の『自分たちの学校をよりよくしたい』という意欲を高めるため、委員会活動における児童の裁量を拡大し、課題解決型の自治的な活動を推進する。</li> <li>○ 共通の興味・関心をもつ集団の中で、個性を発揮し協力して活動する場を充実させる。また、他クラブとの交流や活動公開の機会を設けることで、互いのよさを認め合い、新たな気付きや意欲的な活動へとつなげる『相互啓発型』のクラブ運営を推進する。</li> <li>○ 児童会活動を通して、責任感や協力の精神、集団の一員としての自覚といった社会性を養うとともに、自己有用感を高めていく。また、取組をパートナー校と共有し、共にできることを検討していく。</li> <li>○ 外部専門講師を活用した実践的なネットモラル授業を展開するとともに、スクールカウンセラー等と連携した相談体制を強化する。SNS等におけるトラブルの未然防止を図るだけでなく、不安や悩みを早期に解消できる環境を整え、児童が安全にICT機器を活用できるリテラシーの定着を目指す。</li> <li>○ 挨拶運動において、代表委員会を中心に、児童自らが「なぜ挨拶が必要か」を考え、スローガンや具体的な目標を柔軟に設定する場を設ける。また、単なる唱和ではなく、相手の目を見て反応を確かめる「対話としての挨拶」を推奨し、学級活動と連動して挨拶の大切さを考える機会を作る。活動後には、児童自身が振り返りを行い、「自分たちの活動で学校がどう変わったか」を実感できるようにする。</li> </ul>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者 評価委員会 による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶については、する子としない子がいる中で、「なぜ挨拶が必要か」を考えることはとても大切だと思いました。「ありがとう」なども自ら言える子が多いので、児童会館でも挨拶の輪を広げていきたいです。</li> <li>○ ネットモラル授業は、学校で行っていただけると、保護者の方もとても安心すると思われます。</li> <li>○ 長い歴史の中で、北小の挨拶運動は定着していると思うので、今後もよろしくお願いします。</li> </ul>			

<p>健やかな 体の育成</p>	<p>B</p>	<p>「仲間・時間・空間」の創出により、運動機会の更なる充実を図る。</p> <p>○ 「なわとび活動」に継続して取り組み、個々の体力向上と運動への意識向上を図るとともに、「鉄棒週間」「マット週間」「跳び箱週間」の設定により、児童が十分に活動に取り組むことができるようにする。</p> <p>○ 運動の場の構成（ドッジボールコートや短距離走レーン等の常設等）を工夫するなど、環境の整備により児童の運動機会を増やす。また、PTAから寄贈された自動計測器等を活用し、どの子も運動することの楽しさを感じられるようにする。</p> <p>○ 保健指導において、身体の成長や仕組みを学ぶ活動と連動させ、自他の命の尊さを実感できる『命の教育』を推進する。かけがえのない命の尊厳について多角的に考える機会を設けることで、自分を大切にし、互いの個性を認め合える豊かな心の育成を図る。</p> <p>○ 栄養教諭による専門的な指導を各教科や学級活動に効果的に位置づけ、給食を『生きた教材』として活用することで、食への感謝の心やマナーを育むとともに、自らの健康を考えて食品を選択できる自己管理能力の基礎と、生命を慈しむ実践的な態度を養う。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者 評価委員会 による意見</p>		<p>○ 測定器などがあると、記録を目標に励み、楽しみながら運動ができるので、よい考えだと思いました。</p> <p>○ PTAを含め、食への関心を高めていけるよう、栄養教諭による専門的な指導に、今後も期待しています。</p>		
<p>信頼される 学校の創造</p>	<p>B</p>	<p>○ カリキュラム・日課表の見直しにより創出した時間を活用し、探究的な学習や個別最適な学びの充実を図る。また、教育活動の効果的な再配置により、教職員が一人一人の児童とより深く向き合う指導体制を構築し、きめ細やかな支援と児童の深い学びの両立を推進する。</p> <p>○ 学校HPの更新頻度を上げることで、教育活動のねらいと子どもの活動の様子をタイムリーに伝えていく。</p> <p>○ 運動会等の行事や土曜参観、懇談会の内容を精選・充実させることにより、教育活動のねらいと子どもの成長の様子がよく伝わるようにしていく。</p> <p>○ 教員研修を質・量ともに充実させることで、個々の資質と技能の向上を図る。</p> <p>○ パートナー校・家庭・地域との連携を図り、子どもの育ちを継続して支えていく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者 評価委員会 による意見</p>		<p>○ 学校のホームページは、私たちも見ています。更新されていると学校の様子が分かって、地域や保護者の方にも見える化されるので、信頼につながると感じます。</p> <p>○ 地域の一員として、今後もよろしく願いいたします。</p> <p>○ 地域として、今後も協力していきます。</p>		

危機管理	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「防災・防犯・交通安全・学校安全・健康」の5分野を統合した『安全教育パッケージ』を年間12回のカリキュラムとして体系化し、発達段階に応じた継続的な指導を行うとともに、児童の生活圏内の具体的リスクと結びつけた探究的な活動を推進することで、自らの命を守る判断力を養う『生きた安全教育』を実践していく。</li> <li>○ 上記の活動に加え、生活科や総合的な学習の時間等と連携した課題探求的な活動を推進する。また、他教科の学びを安全教育に効果的に組み込むことで、多角的な視点から危険を察知する思考力を養い、実生活で正しく判断・行動できる資質・能力を育成する。</li> <li>○ 児童・保護者・職員の危機管理意識は高まってきているので、更に取り組みを進め、パートナー校や地域と連携した訓練等を検討していく。</li> <li>○ 知識の確認に留まらず、校内の発生場所を想定したシミュレーションや、防火扉・シャッターの操作実演を全職員で行い、緊急時の即応力を高める。</li> <li>○ 防犯対策において、警察と連携し、防犯器具の活用や避難誘導の実技演習など、より具体的で実践的な防犯体制を構築する。</li> <li>○ 活動のたびに自校の課題を振り返り、危機管理マニュアルを常にアップデートすることで、活動の形骸化を防ぎ安全意識を定着させる。</li> </ul>	A	A
学校関係者 評価委員会 による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防犯・防災については、必要な知識を身に付け、避難訓練などを行っていることは、子どもたちから伝わってきます。</li> <li>○ 町内会としても、6-11月まで、第1,3水曜日に夜間パトロールを実施し、協力していきたいと思えます。</li> </ul>			
いじめ対策	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ いじめ対策委員会を定期的開催するとともに、急を要する場合は、臨時で開催することで、組織として迅速な対応ができるようにする。</li> <li>○ シャボテンログ等による情報共有を全職員で徹底することで、児童の小さなサインや軽微な事案を早期に把握する。組織的な初動対応を迅速に行うことで、重大な事案への発展を未然に防ぎ、児童が安心して学校生活を送れる安全な教育環境を構築する。</li> <li>○ 対応後も、子どもの様子を複数で見取り、保護者と共有していく。</li> <li>○ 卒業学年に関して、保護者とも確認を取りながら、中学校への引継を適切かつ確実に行う。</li> </ul>	A	A
学校関係者 評価委員会 による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校でたくさん対応されている話が聞こえてきますので、丁寧な対応をされているのではないかと感じます。</li> <li>○ 小学校で不登校だった児童が、中学校入学というタイミングで通学できるよう、中学校との連携をお願いします。</li> </ul>			